

# 議会だより

 八丈町  
No.191  
2019.8.25 発行

News Letter From Hachijo Town Assembly

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます  
<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

## 旧末小 多世代交流サロン



お茶を飲みながら交流



とれたて野菜を販売（しまなか市）

### 毎月第2土曜日午後に

末吉地域では、毎月第2土曜日の午後「めんなわせよ〜い」を合言葉に、赤ちゃんから高齢者までを対象とした、多世代交流サロンを実施しています。

場所は旧末吉小学校。活動費ねん出のため、とれたて野菜の販売やリサイクルバザーも同時に行い、他地域からのお客様もいらっしやいます。



こんなのできた!! 子どもの工作

### CONTENTS

#### 意識改革と情報発信の高度化を

- 2P 第2回定例会
- 3P 一般質問（6月定例会）
- 8P 質疑より
- 9P 東京都町村議会議員講演会参加レポート
- 10P 要望活動報告
- 11P 第38回八丈町小笠原親善訪問

# 第2回定例会 令和元年6月11日

## 意識改革と情報発信の高度化を

令和元年第二回八丈町議会定例会では、5名の議員が一般質問に登壇し、人口問題、町立八丈病院の医師不足、幼児教育や保育の問題、温泉の温水便座等様々な質疑がありました。また、SNSによる情報発信、町営施設のキャッシュレス化、ICTを利用した情報収集や働き方改革など、高度情報通信社会への理解と有効な活用についても意見が出されました。

予算審議では、学校施設のエアコン、えこ・あぐりまーとの屋根等、町営施設の経年劣化による修繕や「アイきっぷ」の利便性の拡大など様々な課題解決に向けた対策の強化について検討されました。学校の砂の飛散防止のための事業や農地防災対策など自然災害に対応していくことも重要です。

また平成27年に議員提案によって発足した「航空運賃特別委員会」から派生した「八丈島航空路利用促進協議会」事業については、本来「搭乗率の向上」が主な目的でした。しかし最終的には特定有人国境離島滞在型観光拡充支援事業によるモニターツアーで事業が終結。「足を削りて履に適せしむ」という言葉がありますが、無理につじつまを合わせようとした結果、本来の目的達成には至らなかったという現状でした。今後、同じ事を繰り返さないための方針が求められています。

(宮崎陽子)

### 主な議決事項

#### 6月定例会 令和元年6月11日開催

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について  
(平成30年度八丈町一般会計補正予算)  
ほか専決処分3件
- ◎ 平成30年度八丈町一般会計継続費繰越額の報告について
- ◎ 平成30年度八丈町一般会計繰越明許費繰越額の報告について
- ◎ 平成31年度八丈町一般会計補正予算  
ほか補正予算1件
- ◎ 八丈町が設置する一般廃棄物処理施設に係る生活環境影響調査結果の縦覧等の手続きに関する条例の一部を改正する条例  
ほか条例1件

- ◎ 三原中学校屋上防水等改修工事請負契約
- ◎ 土地改良事業計画の策定について
- ◎ 土地改良事業計画の変更について
- ◎ 議員の派遣承認について(青ヶ島牛祭り)  
ほか承認1件

### 主な会議事項

#### 議会運営委員会 令和元年6月4日開催

- ◎ 令和元年第二回八丈町議会定例会について

#### 総務文教委員協議会 令和元年7月16日開催

- ◎ 八丈町ごみ処理施設整備基本計画について

## 総務文教委員協議会 (令和元年7月16日開催)

令和元年7月16日に開会された「総務文教委員協議会」では、八丈町ごみ処理施設整備基本計画について協議が行われました。

八丈町クリーンセンターは稼働から22年という年月が経過して、塩害による建屋の劣化と焼却炉の耐久性低下によって、維持管理が困難な状況だった事から、新たなごみ焼却施設を整備していく事が決定されており、令和6年度の新施設供用開始に向けて、ご理解をいただけるように、今後、住民説明会等も行う予定です。情報共有を図り、人々の意識改革から住み良いクリーンアイランドを目指していく方針が問われています。

(宮崎陽子)

# 一般質問

6月11日  
質問者5人

6月定例会では、町政全般へ5名の議員が8項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿については、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものととなっておりますのでご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie/movie304.html>

氏名	質問項目
宮崎陽子	地域経済分析システム RESAS を有効活用した八丈島人口推移と離島における ICT を導入した働き方改革について 八丈町で小児科医師不足の不安を緩和させるための ICT を活用した遠隔医療システムについて
山本忠志	八丈町「関係人口」創出事業で人手不足に歯止めを 幼児教育・保育の無償化の開始に伴う本町の影響について
沖山恵子	地域活動支援センターの運用を今後どのようにするのか
岩崎由美	町の情報発信に SNS の活用を
山下則子	町もキャッシュレス決済を 町営温泉施設のトイレ便座を温かく



宮崎陽子 議員

所要時間 18分

## 地域経済分析システムRESASを有効活用した八丈島人口推移と離島におけるICTを導入した働き方改革について

**問** 全国的に人口減少が問われる中で、八丈町でも大きな改革を決断する時が迫っている。住民の皆さんに八丈島の現状について、説明責任をしっかりと果たす事、抜本的に分析する必要があり、八丈島の【適正人口】を理解する為には、全国各地で暮らす人々の姿を知ることが重要。内閣府による地域経済システムRESASでは全国のデータから具体的な数値が明らかにされている。このような情報

提供システムを有効活用しながら八丈島に求められている新しい【働き方改革】を実践していく事を推進する。島の空き家対策等の遊休資産を転用した働く場所の提案と、時間や場所にとらわれず離島でも、実際に八丈島で人々が働く場所として、ICTを活用した新たな拠点をつくる取り組みを提案するが、町の今後の方針を問う。

**答** 企画財政課長 八丈町では本年度基本構想策定の基礎資料とするため、専門機関にRESASによる分析を依頼する方針である。

今回は経済の部分に重点をおきたい。島の産業の強みを踏まえ、推進する中でICT等取り入れる事により労働の効率化と生産性の向上を図る事もひとつの働き方改革になるので今後検討していくべきテーマと考えているところである。サテライトオフィスについて、八丈島の魅力を活かした企業誘致、企業支援等の目的をもって定住移住人口を増やすという事で計画したこともあ

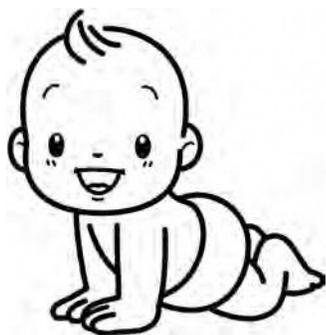
った。

昨今では民間レベルにおいてすでに本土に所在する企業により、リモートワーク等が実践され、サテライトオフィス整備に向けた取り組みも進められている。八丈町でもこのような民間の動きを的確に情報収集しながらどのような協力出来るのか今後の方向性を考えている。

## 八丈町で小児科医師不足の不安を緩和させるためのICTを活用した遠隔医療システムについて

**問** 現在、八丈町の病院では小児科医師不足が大変深刻な問題になっている。子育て中のお母さんをはじめ、ご家族の皆さんの不安を軽減させるため、遠隔医療の必要性について問う。インターネットを活用したオンライン医療相談では産婦人科と小児科の連携を行い、カルテを共有しながら妊娠期から産後の育児の大切な時期に正しい医療知識と安心を提供することで切れ目のない豊かなサポートが実現されている。現在、医師不足で深刻な八丈町に必要なシステムである。ICTによる遠隔医療の必要性について、今後の八丈町の方針を問う。

**答** 事務長 町立八丈病院の小児科医師不足に関して、今まで、小児科検診と診療をひとつにまとめて一人の医師にお願いするという事がネックになっていた。検診については東京都医師会にお願いして診察と別に検診を行う方向で調節を検討している。将来的には、八丈町としても遠隔医療を検討しなければならないところである。



山本忠志 議員

所要時間 20分

## 八丈町「関係人口」創出事業で人手不足に歯止めを

**問** 最近の八丈町は、人口減少・高齢化により、住民生活に直接関わる課題が顕在化するようになった。

こうした課題に対し、総務省では、移住してきた「定住人口」や観光に来た「交流人口」ではなく、地域と多様に関わる「関係人口」という人々に着目し、地域外からの交流の入り口を増やす取り組みを始めている。

例えば、①八丈島にルーツがある ②八丈町にふるさと納税した ③八丈島関連行事・イベントに常連参加 ④その他八丈との繋がりや関心が濃い等、という方々を仮称「八丈島サポーター」としてリストアップし、多種多様な町づくりの支援をお願いしてはいかがか。町の考えを伺いたい。

**答** 企画財政課長 国は、地域と多様に関わる「関係人口」に期待しており、地域外の人々が継続的につながりを持つ機会を提供するために、モデル的事業として関係人口創出拡大事業を進めている。

一方、「関係人口」に関する検討会も立ち上げられ、その目的や機能についても幅広く検討されており、今後の国の動向を注視してまいりたい。

今、町として取り組むべきことは、「八丈島ファン」を増やすことであり、ふるさと納税、定期的来島、特産品の購入、島のPR活動等、積極的に関わっていただくための方途を考えていきたい。

また、「関係人口」の人には「八丈島サポーター」として認定し、ステータス感を持っていただくことも意義がある。今後、地域住民との交流機会の拡大等、次のステップを考えていきたい。

## 幼児教育・保育の無償化の開始に伴う本町の影響について

**問** 昨年12月28日に「幼児教育・高等教育無償化の制度の具体化に向けた方針」が閣議合意され、本年10月より全ての3～5歳児と住民税非課税世帯の0～2歳児を対象に、幼稚園や保育園などの保育料が無償化されることになった。

このことにより、本町保育園への入園希望者数の増大、またそれに伴う待機児童の可能性、更に保育士不足等、現状をどのように分析しているのか町の考えを伺いたい。

**答** 福祉健康課主幹 保育料が無償化されることによって、直ちに入園希望者の急増や受け皿不足等の影響が出ることは考えにくい。

保育士不足については、島内で資格取得助成の町単独補助事業により2名が資格を取得し、現在、育休代替として勤務中である。また島外においては、保育士専門学校への募集広告、物産展でのチラシ配布等の結果、一定の成果も認められた。現状は厳しいが、引き続き人材確保に努めたい。

一方、次年度から始まる会計年度任用制度による体制面や財政面の課題もあり、安定的な保育サービスを提供するためには、様々な角度から検討する必要性を感じている。



沖山 恵子 議員

所要時間 22分

## 「地域活動支援センター」を今後どのように運用するのか

「地域活動支援センター」は、精神疾患や障がいを抱えた方の安定した生活を支援する福祉サービスの組織。精神・身体・知的障が

いや、地域の方も利用できる。

地域社会との繋がりを持つことが難しく、孤立してしまうような障がい者に対して、日中の居場所づくりや生きがいづくり、日常生活の困りごとを相談できる機会の提供などを行うのが活動内容である。困難な事例の方の対応をする事も多く、行政からの紹介で支援を開始する方も多くいる。全国の市区町村の8割以上にある組織である。

八丈島では、町の補助を受け「よけごん」が昨年誕生した。現在の活動は週3回、30数名の登録者に対し日中活動を実施、昨年は延べ1400人弱の利用があった。

登録者は、精神・知的・身体障がいの方だけでなく、障がいの認定は受けていないが（成人に限らず）社会生活に困難を感じている人、ちゃんこめ会やロベの会の利用者、介護度が低い高齢者等バラエティに富んでいる。

共通しているのは、他に適当な受け入れ先がない方々の受け皿として「よけごん」が機能し、利用者は「よけごん」に通うことで居場所と心の安定を得ているところだ。

また、心に不安を抱えた方の駆け込み寺として、既存の組織では対応できない様々な生活支援も行っている。昨年は、訪問や受診の同行・各種手続きの同行・カンファレンス等で年100回を超える活動を行い、月700～1,000回を超える電話相談に対応した。とても頑張っている。

しかし、町は今年度補助額を減らした。「このままではやっていけない」とよけごんから支援の要請を受け質問する。

**問** 昨年より補助額が大きく減った理由は何か。

**答** 福祉健康課長 町の補助審査委員会でデイサービスの実績計算をした結果減額となった。

**問** 週3回の実施日のみが補助対象で、その計算だと減額となるのは分かるが、家賃や光熱水費は月単位でかかり、3日分の補助では苦しい。前日からの準備がかかえず、当日のみ動いているわけではない。また「よけごん」は他の日に沢山の生活支援を行っており、そ

ことを考慮して欲しい。

〔答〕 今後団体と協議し、補助対象の拡大について検討する。

〔問〕 「地域活動支援センター」は住民の福祉の向上のために今後も必要な組織とサービスだと思うが、町は今後どのように支援する予定か。

〔答〕 障がい認定の有無にかかわらず支援するセンターの活動の有効性は十分承知しており、町としても支援していきたいと思っている。



岩崎由美 議員

所要時間 15分

## 町の情報発信にSNSの活用を

さる4月9日、町立八丈病院職員が小児科医派遣協力をFacebook上で呼び掛けた際、多くの反響があった。ご苦労したこともあると思うが、まずは発信した職員とそれを応援した上司の方に敬意を表したい。

〔問〕 この呼び掛けの効果、協力依頼申し出の状況は。

〔答〕 事務長 4月の時点で、5月以降の医師の確保が一時的に困難になった。短時間に情報拡散にすぐれたSNSでの小児科の医師派遣依頼の情報発信を検討。しかしながら町にはSNSでの情報発信受信の運用規定等の取り決めがなされていなかったために、異例ではあるがあくまでも職員個人での臨時的情報発信を行った。6月4日の時点で、この投稿に関するシェアが2,353件、コメントが271件、直接の医師からの問合せが20件あった。この結果、5月から8月にかけて6人の医師、約3分の1の診療日を確保

することができた。多くの方の善意に感謝している。

〔問〕 現在、町では公式なSNSとして防災無線に連動したものがあるが、町民からもさらなるSNSによる情報発信を望む声がある。人材募集やその他情報発信において今後SNSを活用すべきと考えるがいかがか。

〔答〕 企画財政課長 小児科医派遣の呼びかけについては、多くの反響がありSNSの持つ大きな可能性を感じた一件だった。今後のSNSの積極的な活用については、内部から以下のような意見が出ている。

①公式でSNSを利用するにあたっては、情報発信の内容や緊急性を鑑み、適切にチャンネルを分けることが望ましい。具体的には防災無線の内容とイベント等が明確に区別されるべき。

②情報発信は情報弱者との格差を生むことから、配慮を要する。速報性に特化した利用が望ましく、従来の情報提供手段を補完すると考える。

③受け手にとってはあくまでもきっかけであり、そこから誘導されるホームページや、窓口対応での質の高い情報提供が基礎であること。SNSは情報がどんどん流れていってしまう「フローデータ」だが、ホームページや紙媒体、窓口対応といった情報は固定しておける「ストックデータ」であり、これらを兼ね合わせた総合的な情報提供を検討する必要がある。

④住民への情報発信と、シティセールスなど島外へ向けての発信は分けて考える。

⑤公式アカウントでの利用を行う場合は、ルール策定も同時に進めるべき。単にツールの議論ではなく、アナログ、デジタルを含めた様々な媒体がどのような役割を果たすべきか、今回のご質問を総合的な情報発信のデザインを考える契機にしたい。

〔問〕 庁内でしっかり議論してくださり前向きな回答に感謝する。どのような内容やスケジュールで進めていくか。

〔答〕 検討の入口に立ったということで、期間についてはどのくらいということは申し

上げられない。しかしこのような技術は日々変わっており、それに伴い住民の要求もある。我々もそれについてはしっかりと認識して、できることから始めていきたい。庁内でもSNSについての理解に格差がある。若手中心の「IT推進委員会」において、SNSの在り方などの勉強会や広報のあり方等について検証しながら、ひとつずつではあるが、できるだけ早く進めていきたいと考えている。



山下 則子 議員

所要時間 13分

## 町もキャッシュレス決済を

最近、町内においてもクレジットカードで決済できる店舗が増えている。

クレジットカードの明細書で家計の管理をしたり、ポイント還元等の利点もあり、今や若者だけでなく中高年もカードやスマホをかざす人が多くなっている。

しかしながら、町の施設では未だに使用できない。

キャッシュレス化を導入することによって、例えば、町立病院での入院費の支払いや病院会計の事務処理の簡素化等、そのメリットは計り知れない。

**問** 町庁舎や出張所、病院等でのキャッシュレス化を進めていただきたいが、町ではどのように考えているのか伺う。

**答** 会計課長 町施設でのキャッシュレス決済の導入は、庁内全体で議論したことはない。

しかしながら、島内でのキャッシュレス化が進んでいることは認識している。

公金の窓口収納キャッシュレス決済については、現在のところ導入の計画はないが、実施自治体の導入効果、利用状況、決

済にかかる手数料負担、システム費用などの課題に対する情報収集をするとともに、法整備などの国の動向も注視しながら検討していきたい。

## 町営温泉施設のトイレ便座を温かく

町営温泉は、町民のみならず観光客も多く立ち寄る観光スポットとして、今や八丈町では欠かせない場所となっている。

その温泉施設のトイレ便座について、温かいものにと要望したところ、福祉健康課より、トイレに電源が無いので便座カバーで対処したとの回答があった。

町の厳しい財政状況の中での精一杯の対応には感謝しているが、やはり冬場の寒い時に、冷たい便座に座るのは健康面でもよろしくないと思う。

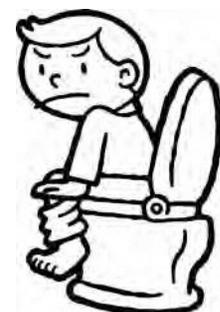
**問** 私としては、便座カバーの設置は、あくまでも臨時的措置と認識しており、衛生面からも温水洗浄便座が不可欠と考えるが、町の考えを問う。

**答** 福祉健康課長 昨年度、議員より話があり、各施設のトイレを確認したところ、電源がないことがわかり、便座カバーで対応したが、衛生面でもよろしくないとの事で、急遽取り外した経緯がある。

9月の補正にて、島内温泉施設の13ヶ所あるトイレのコンセント工事と温水洗浄便座ではないが、暖房便座の設置をする。

**問** 公衆浴場なので、衛生面からも温水洗浄便座でお願いしたい。

**答** 今一度検討する。



# 質疑より

6月定例会では平成31年度一般会計、病院事業会計の補正予算が上程され、質疑が行われました。主な内容を抜粋、要約して掲載します。

## ◎ えこ・あぐりまーとの屋根のひょう被害について



廣江 才 議員 保険には入っていたのか。その保険はもう給付されたのか。これはまた別に計上されているのか、保険に関して。

産業観光課長 町の施設なので共済の保険は加入している。請求できるところは請求したい。

## ◎ 三原小学校の植栽工事請負費が委託料になり減額された件について



浅沼隆章 議員 この経緯は。またどのようなものを植えるのか詳しく知りたい。

教育課長 昨年度の中之郷自治会において、「校庭の砂が飛ぶので対策をしてほしい」という要望があった。それを受けて、当初予算計上時には現在植えられている低いピロウの手前に高木のピロウを植栽することでより高い位置での防風を図ることを考えていた。しかし教育委員会の会議等で、教育委員の方々から「ピロウでは防風にはならないのではないか」という意見が出され、東京都島しょ農林水産総合センターに相談し、東京都苗木生産供給事業を紹介された。この事業は、公共施設の緑化を目的として東京都が苗木を無料配布、八丈島の港に到着するまでの運送料を含む経費も負担してくれるという事業。配布樹種等の詳細は潮風に強いイヌツゲ、シラカシ、マテバシイの3品目。今回の補正では、そのピロウに係る植栽経費を、八丈の港から一時管理置場か三原学園に運ぶ運搬費用、それと植樹にかかる費用、肥料代に変更して差し引いた金額を減額

するもの。また植栽は業者に委託して、まず業者が穴を掘り、そこに三原小学校の児童が植栽する。その高さは3メートル程度で、将来を見越していくと相当高いものになる。

## ◎ 都立病院の地方独立行政法人への移行に関する実情は



山下 巧 議員 現在、都立病院が地方独立行政法人化で東京都から切り離されるのではないかと住民が心配していて、その反対運動の署名活動があるが、町はこれを把握しているか。

また、住民は、都立病院が法人化された時の医療サービスに影響があるのではないかと不安を持っているが、この独立行政法人になるという情報は確かなのか。

町長 法人化する方向は事実である。署名活動は東京都も把握していて、7月の広報で住民に東京都の考え方を周知したいと病院経営本部に現在依頼している。

## ◎ 土地改良事業計画は、鉄砲水等を考慮した設計を



菊池 良 議員 先日も末吉で鉄砲水が小学校の敷地内にも入り、都道にも流れたという状況があった。その辺がないように考慮してやってほしいがいかがか。

産業観光課長 こちらは農地の防災事業になっているので、それを踏まえ設計している。次に始める河尻についても、同様に設計してもらいたい。

# 東京都町村議会議員講演会参加レポート

日時 令和元年5月16日(木) 16:00～17:30

場所 ホテル日航立川東京 4階マグノリア

演題 その時救われる命のために～奇跡の花の物語～

講師 アイリンプループロジェクト実行委員会 代表 菅原 淳一氏

参加議員 奥山幸子 浅沼憲春 宮崎陽子 浅沼隆章 山下則子 山本忠志  
沖山恵子 菊池 良 小川 一 山下 巧 岩崎由美 廣江 才



## 【講演の概要】

講演は、2011年（平成23年）3月11日の東日本大震災の被害者・佐藤愛梨ちゃん（6歳）の母「佐藤ちか」さんのビデオレターから始まりました。

2011.3.11と言う日が無ければよかった。愛梨を朝起こさなければよかった…  
絶望のどん底の中で、津波で娘が命を落としたその場所に咲いた花だけが唯一の希望となった。姉の愛梨をいつもお手本にしていた次女のゆりは、「お姉ちゃんはいつ帰ってくるの」と何度も何度も…。夜空を指さして、「愛梨は星になったのよ」と伝えると、大粒の涙を見せて、それ以来ポーっと過ごすようになった。（概略）」という内容に、当時の惨状を彷彿とさせるレターでした。

実はその時、愛梨ちゃんは高台にいて、そのままそこにいれば津波にあうことはなかったのに、バスに乗せられ海岸に下ったために亡くなったとのこと。原因は交通渋滞。ドライバーはバスから降りて助かったとか。やりきれない思いだが、誰もドライバーを責めることはできない。

さて、その津波から4年後、2015年5月27日、愛梨ちゃんが亡くなったその場所に一輪の花が咲いた。枯れかけていたその枝を折って挿し木にしたところ、プランターで見事に咲いた。名付けて「アイリ」ちゃん。今は、国営公園等たくさんの場所で咲くようになり、植栽運動として広まっている。

この運動は、備えの大切さへと繋がり、いかに自分事として捉えられるかに発展し、また、命の大切さと防災の大切さを伝えることにも繋がっている。

そして更に、いじめる側の子が率先して花を育てる側になり、いじめの解消に繋がった事例も報告された。災害はもはや対岸の火事ではない。

結びの場面では、妹のゆりさんからのメッセージ動画が放映され、災害への備え、被害を最小限にするための日頃の取り組みの大切さが伝えられました。

菅原氏からの防災上の教訓

- (1) 自分の地域の安全・危険地帯を把握（地域を知れば、新たな交流・発見あり）
- (2) 三人寄れば文殊の知恵（いざという時一人にならず、複数で行動・判断する）
- (3) 緊急時には個々で乗り切れ（自分が助かり、共に助かり、公と連携する）

最後に、「一番の防災は、忘れないこと」と結ばれました。



## 【感想】

咲くはずのない場所に震災後4年を経て、奇跡的に咲いた花を通して、「命」の大切さ、防災意識の向上等、日頃からの備えへの啓発活動に頭が下がりました。

講演会のパンフレットには、その花（フランスギク）の種が入った小さな袋がステープル留めされており、栽培を決意。6/1に発芽（画像）し育成中。

奇跡の花に込められた愛梨ちゃんの願いを、しっかりと開花させて受け止めたいと思います。  
（山本忠志）

## 要望活動報告

八丈町議会は、町長や町職員と共に年に一度、国や都の各機関へ要望活動を行います。今回は以下のとおりです。

日時 令和元年5月20日(月)～21日(火)

参加者 山下町長 町管理者 奥山幸子議長 山本忠志総務文教委員長 菊池良経済企業委員長

### (要望項目)

1. 港湾及び漁港の整備に関する要望
2. 道路の整備等に関する要望
3. 産業振興に係る施設等の整備に関する要望
4. 町立八丈病院の財政援助及び医師や看護師等医療従事者確保の支援に関する要望
5. 定期航空路運賃(小児運賃)低廉化に関する要望
6. 都立八丈高等学校への特別支援学級設置と教員配置に関する要望

### (口頭要望項目)

1. 公民館整備に係る支援について
2. 再生可能エネルギー利用による地域産業振興に係る支援について
3. 大川浄水場改修事業の支援について
4. 歴史民俗資料館整備事業への支援について
5. 東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所の建替えについて
6. ふるさと村の再建の支援について
7. ごみ焼却施設の整備に係る支援について

今回は「都立八丈高等学校への特別支援学級設置と教員配置に関する要望」及び「ごみ焼却施設の整備に係る支援について」を報告します。

### 「都立八丈高等学校への特別支援学級設置と教員配置に関する要望」

**要望内容抜粋** 現在町の小中学校には、全学年に計20人の知的障がいあるいは肢体不自由の児童・生徒が在籍している。島外の寄宿舎のある高校に行けば、専門的な教育を受けられるが、月2回隔週の送迎は経済的・精神的・肉体的な負担が大きい。八丈高校に特別支援学級を設置して欲しい。設置が無理なら、障がい者の入学受け入れと教員の人的配置をお願いしたい。

**都行政部の回答** 都教育庁八丈出張所長(支庁長)からも状況を聞き、後押しできる事はするので意見をよせて欲しい。

**都教育庁の回答** 寄宿舎利用については、制度の改善も含めて経済的な支援を対応中だが、経済的支援で全て解決するものでもないので、保護者の負担軽減について継続して検討する。今回個別の形で要望があったのは、町の喫緊の課題だと認識しており教育庁も様々な面から検討していく。

### 「ごみ焼却施設の整備に係る支援について」

**要望内容抜粋** ごみ焼却施設の建設には多額の費用が必要で、整備に係る支援をお願いしたい。また、環境基準がいろいろ厳しくなっており、最終処分場の延命化のためにも危険の無い物を入れて行きたいので、技術的支援をお願いしたい。

**東京都環境局の回答** まずは国の交付金があり、加えて都の廃棄物処理施設整備費都補助金の活用になると考える。現在は計画の段階で、設計・工事・本格稼働と何年も続くと認識しており、必要な予算措置を図り、技術的に支援させていただければと思う。残灰は3R(減少)(再使用)(再生利用)を徹底し燃やすごみを減らして行く等、色々相談させて頂き、時間をかけてよりよい方法を見つけさせていただきたい。

◎ その他の項目についても、今後「議会だより」のなかで報告する予定です。

# 第38回八丈町小笠原親善訪問

期 間 令和元年 6月20日(木)～6月25日(火)

視察議員 浅沼憲春・宮崎陽子



小笠原諸島南島 扇池

20日 底土港から就航2年目の新船おがさわら丸で一路小笠原へ

21日 早朝の青龍丸戦没者追悼式には、多くの方々が参加され御霊に花と島酒を捧げました。

父島に到着して下船すると、森下村長や多くの島民の方々から熱烈的な歓迎をいただき、昼食後は村役場の方の案内で父島内の視察に。以前に比べると綺麗な街並みとなり、観光の島へと変貌していたのには驚きました。

また、環境省・林野庁・国土交通省の施設や、海上自衛隊・海上保安署・JAXA 追跡所・国立天文台 VERA 観測局等の施設もあり、雇用や観光面に寄与していると感じました。

夜は八丈町の親善訪問団の歓迎式があり、村役場の職員や八丈の方々と交流を深め、98歳の女性の歌で踊る南洋踊りや島太鼓にスティールパン、八丈の六人会の方の太鼓には参加された皆さんから大きな拍手が寄せられました。

父島の村議会の池田議長と議員の皆様と会話も盛り上がったところでお開きとなりました。

22日 2日目は杉本総務課長と洋上視察へ。午前中の南島へ向かう途中の海のボンブルー（底抜けに明るい海の青）にはシャッター音が止まりませんでした。

南島はヤギの食害で地面が露出し、植生回復のためヤギの駆除が行われ、観光客の入島時には都認定の同行ガイド、定められたルート以外は立ち入り禁止、上陸時間は2時間以内などの制限により、緑豊かな島に蘇り頂上から見た景色は絶景でした。

午後からは兄島瀬戸海中公園へ。透明度が高いので船の上からカラフルな熱帯魚や珊瑚が見え、餌付けされているため餌を投げると熱帯魚が船近くに寄って綺麗な姿を見せてくれ、兄島からの帰りにはイルカの群れも見えました。

夜は父島の返還祭へ、森下村長や議員の方々と着座して出し物を見る事に。多くの父島の方々が集まり夜店も出て賑やかな返還祭でした。

23日 3日目は母島へ。朝7時30分発のははじま丸に乗船して2時間後には母島に到着。父島と違ってスローな時間と風が流れ、昔懐かしい感じがしました。

到着後、役場の職員の方に母島の北側と南側の視察に案内していただきました。

夜は母島の返還祭に母島の議員さんと参加させていただき、港近くの芝の公園では櫓を中心に組み、カラフルな提灯に屋台と、炭坑節等のエンドレスかつ熱狂的に踊り続ける島民の姿は記憶に残るお祭りでした。

24日 12時出航のははじま丸で父島に到着後、お世話になった森下村長や村役場職員、また議員の皆さんにお礼を言っているうちに出港の時間が迫り、名残惜しく父島を離れることとなりました。

二見湾名物の見送りはボートでおがさわら丸を追いかけ、海にダイブしてくれる心熱くなるものでした。小笠原の皆さんのおもてなしに感謝の親善訪問でした。

追記 小笠原村は産婦人医がないため、島外出産する方に40万円の補助。

小笠原村の医療は自治医大等からの医師が駐在、本土への緊急搬送は9時間超。

5月1日現在の人口は、父島2162名、母島458名計2620名。高齢化率(65歳以上)は15.6%、20代から40代の若い転入者が多く、両島とも活気がある島。

(浅沼憲春)



# 移住者インタビュー その3

## 大賀郷在住・佐藤宗啓さん（40代）に移住のきっかけ、暮らし、夢について伺いました。

IT関連企業に勤務しながら都内で20年間生活しましたが、旅行の際に惚れ込んだ八丈島への移住を決心しました。自然が豊かな上に、飛行機を使えば1時間で都会へも出られるという環境がいいですね。4年経った今でも山や海の風景に日々感動し、島に来て本当によかったと思っています。妻の病気療養も動機のひとつでしたが、だんだん元気になっていて嬉しいです。



移住の際に課題となる仕事や住まいについては、下見を兼ねてやってきた2回目の来島時にトントン拍子に事が進み「これはもう島に呼ばれている！」と（笑）。ホテル勤務を経て、今は福祉の現場で働いています。あまりにラッキーすぎて、これから移住しようとする方には参考にならないかなあ。

島の暮らしで困るのは、雨の日の過ごし方。たぶん旅行者にとってもそうでしょうけれど、雨が続くと家に籠もりがちになってしまいます。地域の方が訪ねてくるといきなり玄関が開く！というのも都会の暮らしではあり得なかったもので、ちょっと面食らっています。そういう島ならではの濃い付き合いが好きな人もいますでしょうけど。読書が大好きな自分としては町の図書館がもう少し充実しているといいなと感じています。

移住してからの4年間で、実に500人近くの人口が減

りました。島に骨を埋めるつもり僕らとしては、八丈島が衰退していく姿を見たくありません。そこで町主催のイベントをきっかけに、移住のお手伝いをする組織を立ち上げようと仲間と相談しています。行政に頼るだけでなく、民間と一緒に考えていけば、もっと色々なことができるのではないのでしょうか。大好きな八丈島の未来のために、今度は僕らが恩返しをする番です。ダメになった時ではもう遅いですからね。

（取材者 岩崎由美）

## 三根在住・都築翼さん（24歳）に伺いました。

Q 八丈島に移住して、どれくらいですか？

A 昨年10月に来たので、8ヶ月経ちます。

Q え〜！ 移住ホヤホヤですね。どういうきっかけで八丈島に？

A 当時、転職したくて、島とかいいな〜と思い、あちこちの島を検索していました。八丈島を見たら、最初の方に現在の会社のホームページが出て来て、牛の写真を見た途端「可愛い〜！」「行きたい！」とすぐ電話しました。

Q どちらのご出身ですか？

A 北海道です。

Q 北海道!!じゃあ、牛に慣れていたの？

A いえ、全然。子供の時に乳搾り体験をしたくらいで…

Q 八丈島で仕事の他に何か楽しんでいることは？

A 八丈太鼓をやっています。月曜会で。消防団にも入りました。それから、人と触れ合いたいと思って、一人で飲みに行ったりしています。おじさんが行くようなお店とか…楽しいです！



Q 八丈島へ来て良かったこととか、こうだったらとか、ありますか？

A 繋がりがいっぱい出来て嬉しいのですが、若い人ともっと繋がる場が何かないかな？ それと、若い移住者に増えてもらいたいです。

（取材者 山下則子）

## [あしがき]

今回の誌面で、お気づきの方がいらっしゃるかも知れませんが、ユニバーサルデザインフォント(書体)になりました(一部は従来のフォント)。目で見て読みやすくなっているでしょうか。

ひとつの例ですが、以前は、障害者トイレと呼ばれていたのが、この頃はユニバーサルトイレや多目的ト

イレ、誰でもトイレと呼ばれるようになりました。

国籍・年齢・性別・障害の有無・能力差等、関係なく受け入れられる社会って素敵です。

9月には、ユニバーサルキャンプや夢伝もあります。八丈町が素敵な町になるように願っています。

山下 則子

発行人 八丈町議会議長 奥山 幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

